

# 鳥取県の将来ビジョン [概要版]

みんなで創る10年後の鳥取県に向けて

## みんなで創ろう

# 活力 あんしん 鳥取県

## ～心豊かな充実生活をめざして

県民、NPO、住民団体、企業、各団体等の知恵と力を結集して、地域・県外・国外と「顔が見えるネットワーク」を持ちながら様々な活動を行う活力にあふれる鳥取県。

そして、その活力を活かし、人生のあらゆるステージ(段階)において、豊かな自然・環境の中で、心の豊かさを実感しながら充実した生活を安心して送ることのできる鳥取県。

＝「活力 あんしん 鳥取県」を、県民とともに創ります。

ひらく



つなげる



守る



育む



支え合う



楽しむ



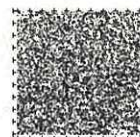
「活力 あんしん 鳥取県」を実現するための様々な取組を、「ひらく」「つなげる」「守る」「楽しむ」「支え合う」「育む」の6つのキーワードで分類しました。

- この将来ビジョンは、タウンミーティングやパブリックコメント、各分野の有識者で構成された将来ビジョン懇話会などでいただいた県民の皆さんのご意見や夢を盛り込みました。
- 将来ビジョンは今後の県政運営の基本とするもので、県民、NPO、住民団体、企業、各団体などと協働・連携して地域の発展に向けて取り組むための共通の指針です。
- 毎年度の予算編成の中で、具体的施策・個別の事業を県民の皆さんとともに作り上げていくための指針とします。
- 平成20年12月に制定され5年が経過したことから、社会情勢の変化等を新しく盛り込み加筆しました。

※音声コード…音声コードとは、どなたにもご利用いただけるよう文字情報を記憶したもので、専用の読取装置により、その情報を音声により読み上げるものです。

[平成26年10月追補版]

# 鳥取県





# I ひらく

地域で・県外で・国外で  
新時代に向かって扉をひらく

鳥取県が、人・物の西日本における北東アジア地域への窓口になる

## 1 人、物、情報の「大交流新時代」を切り拓く ～「北東アジアゲートウェイ(玄関)構想」

- 高速道路の整備と鉄道の利便性の向上、定期航路の拡充などにより、近畿圏域や環日本海諸国・アジア諸国などとの交通の便を強化し、新たな市場開拓を進めるほか、新たな産業の立地を促進します。
- 定期航路・航空路の拡充などにより、国際経済交流を促進します。
- 近畿圏域や他県と連携して、広域観光を展開したり、海外での見本市開催や事業展開を図るなど、県外・国外に打って出ます。

### 北東アジアゲートウェイ構想



境港と米子空港を拠点として、西日本における北東アジアの玄関(北東アジアゲートウェイ)への発展を目指します。

## 2 下請体質から「高付加価値で打って出る産業」へ 転換し、新たなステージへチャレンジ

- 電子・電機・液晶関連産業や、食品・健康科学(バイオ関連)産業、環境産業、医療機器産業などの次世代産業分野の集積を進めます。
- 県内製造業等の高付加価値化を進め、マザー工場への転換や新規立地を促進します。
- 鳥取自動車道開通のメリットを活かせるよう、県内工業団地の整備を促進します。
- デザイン戦略や知的財産を活かしたビジネスモデルの展開などを図ります。
- 新分野への進出に対し農商工観が連携し、必要に応じてフォローアップするなど、県内産業構造の転換に対応した新分野進出を支援します。
- 県内技術を活かした新開発製品を行政が試行的に使用するなど、県内中小企業の活動を支援します。
- 若者が起業にチャレンジしやすい環境を官民連携で創出します。



韓国での博覧会

## 3 就業を希望する人が県内で「いきいきと働ける就業環境」を整備

- 産業再配置、企業立地促進などにより、雇用の場を創出します。
- 経済界・労働界や、福祉・子育て関係機関、地域などと行政が一体となって、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)や男女共同参画が可能な環境を整備し、子育てを支援を進めます。
- 産業人材育成センターのあり方を抜本的に見直し、ポリテクセンターと一体となった職業訓練を行い、県内産業を支える人材を育成します。
- 若者仕事ぶらざ、就業支援員などにより、就業困難者の就業機会を確保します。地域のネットワークを活かし、障がいのあるかたの就業支援を進めます。
- IUUターン希望者への情報提供や相談窓口の充実により、就業環境を整備します。



県立産業人材育成センターでの職業訓練(コンピュータ制御科)



とっとり若者仕事ぶらざ

#### 4 素材が良く、安全安心で美味しい食の魅力を提供する「食のみやこ鳥取県」の推進と、それにふさわしい農林水産業

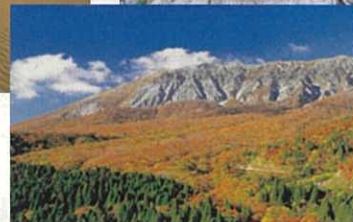
- 高速交通体系の整備などにより、県内の新鮮な食材が県内外に流通し、県外の買物客が増加する「食のみやこ」を目指します。
- 東京のアンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」に加え、大阪、名古屋、福岡などでの情報発信機能を強化します。
- 本県の食を健康、安全、観光などと結び付け、一つの「文化」として定着させます。
- 年間を通じて本県の農産物を出荷するとともに、鳥取オリジナル品種、こだわりのある農産物等(梨新品種の導入による鳥取梨のシリーズ化等)を育成・普及します。
- 隣県・近県と連携した「地域連携ブランド」(大山・中海圏域など)を打ち出すなど、地域の特性を活かした特産品創出・ブランド化を推進します。
- 「鳥取和牛」、「大山ルビー」、「鳥取地どりピヨ」、県産ブランド椎茸など、おいしい鳥取ブランドを形成します。
- 鳥取の農産物や加工食品の知名度が向上するよう、輸出拡大の取組を進めます。
- 農林水産物の一大生産・供給拠点を目指すフードバレーの取組を進め、農家所得の向上を目指します。
- 高鮮度化や市場の衛生管理強化、新たな特産魚種の育成・普及を行い、強い産地と豊かな漁場をつくります。



アンテナショップ(とっとり・おかやま新橋館)

#### 5 観光による「ようこそ、ようこそ鳥取県」の実現

- 県民が「もてなし」の意識を向上させ、観光に参画することを推進します。
- 旅行会社などと連携しながら、地域資源を活かした着地型観光メニュー(\*)の充実・ネットワーク化・情報発信を図ります。  
\*地元ならではの体験・参加型メニュー
- 地域自らが、自然、温泉、歴史、食、文化、人物等に着目し、知恵と力を結集させて地域資源を磨き、行政がその取組内容に応じたサポートをしていきます。
- 近隣県の観光資源と連携した周遊ルートの造成や、マンガ関係施設を巡る旅行などテーマを設定した広域的な周遊ルートの造成等により、観光客の増加を目指します。
- 本県の自然、温泉、食の魅力などにより、エコツーリズム、スポーツツーリズムなどのニューツーリズムや滞在型の観光客の増加を目指します。
- キャンペーンなどのソフト面や特急の増便、鉄道を活用した新たな旅の創造などについて、鉄道会社や旅行会社などの関係機関と協力・提携を進めます。
- 米子-ソウル便の利便性の向上、国際チャーター便の増加、定期航路の充実等により、東アジアを中心とした海外観光客の増加を目指します。



#### 6 活気あふれる「海外との交流」

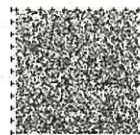
- 境港、米子空港などをアジア諸国との交流の拠点とし、経済・ビジネス活動、文化、青少年、地域活動、スポーツ、大学などの多様な分野で幅広い交流を推進します。
- 友好交流先である韓国江原道、中国吉林省、ロシア沿海地方、モンゴル中央県などの北東アジア地域と連携して、環境問題の課題解決などさまざまな取組を推進します。
- 台湾台中市やアメリカバーモント州などと、官民さまざまなネットワークを活用し、幅広い分野での交流を支援・推進します。



鳥取県とロシア沿海地方の青少年環境学習交流の様子

これまでの主な成果

- ★DBSフェリーの就航/鳥取空港5便化/米子空港6便化・機材大型化/クルーズ船入港増加
- ★経営革新計画承認件数 507件(H11~25年度)<目標440件(H11~H30年度までの累計)>
- ★企業立地件数 229件(H20~H25年度)<目標150件(H30年度までの累計)>
- ★鳥取県ふるさと認証食品の認証数 483件(H3~25年度)<目標500件(H30年度末)>
- ★新規就農者数 649人(H21~H25年度)、林業就業者数254人(H21~H25年度)
- ★観光客入込客数 10,909千人(H25)<目標10,000千人(H30年度)>
- ★県内宿泊者数 273万人(H25)<目標200万人(H30年度)>
- ★外国人宿泊者数 36,910人(H25)<目標30,000人(H30年度)>
- ★山陰海岸の世界ジオパーク認定(H22)



# II

# つなげる

様々な活動・力をつなげ、  
結集して、持続可能で、  
魅力あふれる地域を創る

## 1 地域の資源や技術を新しい発想で組み合わせて新しい価値や産業を創造～「コラボ産業創造構想」

- 商工業、農林水産業、観光、福祉などの連携により、地域資源を活用した新しい産業や価値を創出します。
- 産学金官連携により企業支援を強化し、研究開発成果の事業化など、新事業の創出や高付加価値化を促進します。
- 農業県である鳥取県の特性を活かし、体験農園や、グリーンツーリズム、エコツーリズムなどを活用した観光客誘致・地域間交流を促進します。



ウェアラブル技術によるイノベーション

## 2 県民、企業、NPO、住民団体などが、自由にかつ連携して、自らの地域づくりに取り組む「真の協働連携社会」の実現

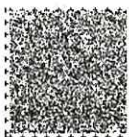
- 協働推進のための新たなセンターを設置・活用し、地域で活躍する団体・「人材(※)」の情報を発信・共有し、個々の活動がつながり大きな効果を生み出すようなネットワークによる地域づくりを全県で展開します。  
※地域の宝である人材
- 行政が地域づくり活動の基礎となる環境づくり・基盤づくりを行うことで、県民・NPOなどが活動を行いやすい体制を整備し、新たな協働活動やこれを支える担い手の増加を目指します。
- 県民・NPOなどからの政策提案や協働提案を受け、より現場に適合した効果的な施策を展開します。



とっとり県民活動活性化センターでの相談

## 3 定住人口の減少を食い止め、新しい住民が増加～「鳥取来楽暮(とっとりこらぼ)」

- 県内企業の増設と県内外企業の新規立地を促進します。若者などの県内就職先を充実させることで、人口の社会増加を図り、人口減少を食い止めます。
- 豊かな自然環境など本県の「強み」を伸ばし、「弱み」を克服する取組を進め、定住人口の減少を抑制する取組を進めます。
- 首都圏や中京・近畿圏などを中心に有効な情報発信などを行い、移住定住先としての鳥取県の知名度向上を目指します。
- 移住定住相談窓口の全県的な整備など、県、市町村、関係機関が連携し、1JUターン、二地域居住などの新しい住民の増加を目指します。
- 移住者向けの当面の生活費支援や、住宅の取得、通学費支援や奨学金など移住支援の充実や、移住者が地域に溶け込めるようサポート体制を充実させることで、文化・芸術の創作活動者など多様な移住者の増加を目指します。



#### 4 中山間地域の住民生活の安全・安心を確保した「持続可能な地域づくり」

- 「鳥取県みんなで取り組む中山間地域振興条例」に基づき、行政、地域住民、NPO、民間事業者、大学、シンクタンクなどの多様な主体が協働して中山間地域の活性化に取り組めます。
- 生活交通の確保、情報通信格差の解消、地域における保健医療・福祉サービスの充実など、安全で安心な定住環境の確保・充実を目指します。
- 地域外からの若い人材のよびこみや、活動者の育成により、地域づくりを行う人材の充実につなげます。著しい人口減少・高齢化により地域社会の力が低下している地域において、地域で協力し解決する共助システムを構築します。
- 農林業振興や起業・企業誘致などにより、中山間地域における雇用を創出します。
- 中山間地域と都市地域との間における連携・協力・交流を進めます。



中山間集落見守り活動活動協定の締結

#### 5 「交通基盤・情報基盤の充実」で利便性向上・地域の活性化

- 鳥取自動車道、山陰道、山陰近畿自動車道など地域の産業活動等の骨格となる高速道路網を整備します。
- 国内・国際便とも、航空便の利便性の更なる向上を目指します。
- 過疎地域の路線バスや若桜鉄道、NPOによる新たな交通手段など、地域の実情・ニーズに合った生活交通体系を確保します。
- 鳥取自動車道、JR山陰線余部橋りょうなどによる利便性向上を活かし、鉄道を活用した新たな旅の創造など、関係機関が協力・提携して近畿圏域などからの観光客誘致を進めます。また、高速鉄道網の整備に向けて関係県と検討します。
- 携帯電話の不感地区の解消、ブロードバンド環境の全世帯カバーなど情報通信格差を無くし、暮らしの安全・安心、利便性を向上します。



産業活動の骨格となる高速道路  
(山陰道(鳥取～鳥取西IC間))

#### 6 魅力があふれ、人が集う「にぎわいまちづくり」

- 県民と行政が協働して商業、医療などの機能をまちなかへ集約・誘導するなど、できる限り自家用車に頼らず暮らせる「コンパクトなまちづくり」を推進します。
- 古くからある歴史的な建築物やまちなみを保全・再生するなど、快適なまちなみを形成します。
- 商店街における事業者間の連携などを支援し、元気な商店街を創出します。また、市街地に生活の利便性と生活文化を提供する、住民と直結した商店街を形成します。
- 地域自らが考え、取り組む、にぎわいのあるまちづくり活動に対して、行政がその内容に応じたサポートを行います。
- まちなかでの高齢化進展や空き家の増加、災害時対応の不安など新たな課題に対応し、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

#### 7 地域の力となり、企業の利益にもつながる「企業の公益活動・社会貢献活動」

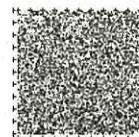
- 「とっとり共生の森」や「カーボンオフセット」、「とっとり子育て応援パスポート」、地域の見守り活動などさまざまな分野で、企業の公益活動・社会貢献活動を促進します。
- 企業の公益活動・社会貢献活動を県民に知らせ、県民も一緒に取り組むなど、さらに大きな活動となるよう行政がサポートします。



とっとり共生の森の活動

これまでの主な成果

- ★「鳥取県民参画基本条例」の制定(H25.3)
- ★公園・河川敷等の公共土木施設の維持管理を行うスーパーボランティア倍増(8団体⇒16団体、H26.9)
- ★IJUターンによる定住・二地域居住者数 3,335人(H19～25年度)<目標1,000人(H19～30年度の累計)>
- ★中山間見守り活動に参加する企業数 57社(H26.9)<目標30社(H30までの累計)>
- ★高速道路ネットワーク整備 122.6km(H25年度)<目標H30年度153.8km>
- ★ブロードバンド(光ファイバー、ケーブルテレビ等を用いた通信回線)未整備市町村数を解消
- ★地上デジタル放送視聴可能世帯割合100%
- ★企業等による森林保全活動「とっとり共生の森」参加企業数 17社(H25年度)<目標30社(H30年度)>



# III

# 守る

鳥取県の豊かな恵み・生活を守り、  
次代へつなぐ



砂丘と中海の清掃ボランティア

## 1 豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる ～「自然・環境バトンリレープロジェクト」～

- 県民、自然保護団体、NPO等と行政との協働に積極的に取り組みながら、自然環境の保全・再生を推進します。
- ノーレジ袋、マイバッグの普及など、県民一人ひとりが省エネ・省資源など環境に配慮しながら日常生活を送る鳥取県型ライフスタイルを確立します。
- ゼロエミッション(工場等における排出物をゼロにすること)の実現を目指し、産業廃棄物の減量化・リサイクルを一層推進します。
- 風力、太陽光などの自然エネルギーや木質バイオマス発電の推進、メタンハイドレートの調査・研究により新エネルギー先進県を目指します。
- 県内の優れた環境研究を県内外・国内外に発信するとともに、優秀な人材を地域の環境活動等に活かします。
- 「とっとり共生の森」による企業と連携した森づくりや「カーボンオフセット」、森林環境保全税を活用した森林の保全・整備を推進し、森林がCO<sub>2</sub>吸収源として有効に機能することを目指します。
- 豊かな自然や再生可能エネルギー施設を利用した環境学習環境を確保します。
- 県産材を利用した住宅の普及や電気自動車の利用環境を整備し、環境に優しい暮らし方を普及します。



県内最大のメガソーラー

## 2 安全に安心して暮らせる「安全・安心の充実」

- HACCPなど食の安全の国際認証の取得を促進するなど、食の安全を確保し、食に対する信頼性の向上を目指します。
- 消費者によるモニター活動により、食品表示の適正化や食の安全を確保します。
- 住宅、公共施設などの建物の耐震化を推進します。
- 消費生活相談窓口を全市町村に設置し、NPOなどの相談窓口を含めた相談機関のネットワークを強化します。
- 犯罪被害者の権利利益の保護を図り、支援を充実します。また、暴力被害者が安心して相談できる体制をつくります。
- 警察・行政、地域住民などが協働し、自主防犯活動の活性化などを図り、犯罪のないまちづくりを推進します。
- 通学路の整備、体験型運転者教育などにより、交通事故の発生を抑制します。
- 危険ドラッグなど地域社会へ深刻な影響をもたらす薬物の乱用を防止します。



消費者によるモニター活動

## 3 「災害に強い県土」をつくる

- 浸水被害や土石流・がけ崩れの減少を目指し、河川、砂防施設等の整備を推進します。
- 緊急輸送道路の整備などにより、災害に強い県土づくりを進めます。
- 土砂災害警戒情報システムの運用など、災害への迅速な対応を推進します。

## 4 実践型の防災・危機管理

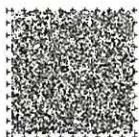
- 一人ひとりが防災・危機管理について正しい知識と技能を身に付け、災害に立ち向かう県民の意識を醸成します。
- 自主防災活動や、災害時の事業所「事業継続」の取組促進、建築物の耐震化の促進、避難支援体制の整備などにより、災害に強い地域社会・地域経済を目指します。
- 新型インフルエンザなど新たな脅威に対する危機管理体制や、消防体制、救命・救急体制を強化します。
- 原子力災害の発生に備え、緊急時の避難対策など体制を充実します。また、大規模災害の発生に備えて他県と連携し、応援体制を整えます。



原子力災害に備えた訓練

これまでの主な成果

- ★「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」の制定(H21.4)
- ★自然エネルギーの導入拡大(ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク、木質バイオマス発電等)
- ★レジ袋無料配布中止(東部10事業者)
- ★とっとり共生の森の参画企業数の増加(11社(H20末) → 17社(H25年度))
- ★県有林J-クレジット販売企業数 0社(H21) → 18社(H25年度)
- ★甚大な被害が想定される河川改修の進捗率 49.9 km (H25年度)<目標47.8km(H30年度末)>
- ★河川監視カメラの増設9台(H20) → 43台(H25年度)
- ★災害情報センター設置、災害情報ダイヤル、安心トリピーメール、エリアメール運用
- ★鳥取県薬物の濫用の防止に関する条例の一部改正(H26.11)





# IV 楽しむ

いきいきと楽しみながら  
充実した生活を送る

大山でのサイクリング風景としゃんしゃん祭り

## 1 「価値実感生活」の実現

- 豊かな自然・環境、歴史、食、文化等を知り、楽しむとともに、地域において自分の存在や役割に手応え・充実感が感じられる「価値実感生活」の実現・充実に取り組めます。
- 本県の「価値実感生活」の魅力を県内外に広く浸透させ、多くのIUターンにつなげます。
- 歴史、自然・環境、食、文化等の良さ・素晴らしさを県民に伝える方の活動を支援するとともに、そのような活動をする人づくりを推進します。
- IUターンされたかたが、地域のかたとネットワークを形成し、不安なく住み続けられるような地域社会をつくりまします。



伝統芸能まつり(神楽)

## 2 芸術・文化を振興することによって、地域の「創造性」を高める

- 芸術・文化が生活の一部となり、県民の創造力を高め、活力あふれる活動が各地で行われるような地域をつくりまします。
- アーティストや文化団体を支援し、芸術・文化活動を活性化します。
- 鳥取県総合芸術文化祭や、廃校等を活用した芸術・文化の発表などにより、県民が芸術・文化を鑑賞する機会を拡充します。
- 地域に根付いて活動を行うアーティストと県民が芸術を介して活発に交流する「アーティストリゾート」の展開を促進します。
- アートスタート事業などにより、子どもの頃から芸術・文化に触れる機会を拡充します。
- 地域の活性化につながる国内外との文化交流などの取組を進めます。



鳥取藝住祭(人形劇)



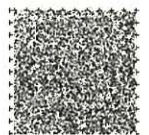
高校生による書道パフォーマンス

## 3 「いつでもどこでも学べる環境」づくりと「スポーツ振興」

- 「生涯学習フェスティバル」、「とっとり県民カレッジ」の実施や、地域公民館活動の支援などを通じて、生涯にわたって学べる場を提供します。
- 図書館を、県民の情報収集、課題解決の支援拠点、豊かな心を育む情報拠点とすることを目指します。また、他の情報提供機関との連携を進め、ネットワークを活用した資料相談(レファレンスサービス)を拡充します。
- 県民が楽しく学び、感動を覚えるような「魅力あふれる県立博物館」づくりを推進します。
- 「鳥取県民スポーツ・レクリエーション祭」や総合型地域スポーツクラブ(※)の創設、マラソン・ウォーキングなどスポーツイベントへの参加を促し、健康を維持できる人の増加を目指します。  
※さまざまな志向・レベルに合わせて参加できる地域運営型のスポーツクラブ
- スポーツ活動を地域が一体となって応援するとともに、地域の支えを受けたクラブ、選手等が活躍するなどにより、地域に対する自信と誇りを高め、地域の活性化にもつなげます。
- ジュニア期から成年期まで連続的な競技力向上を目指し、オリンピックやパラリンピック、国体、全国障害者スポーツ大会などの国際大会や全国大会で活躍できる選手を輩出します。

これまでの主な成果

- ★アーティストリゾート受入団体 13団体(H24~H26年度)
- ★鳥取県総合芸術文化祭「とりアート」開催(H25 県内3地域、200団体参加、26,000人来場)
- ★県立博物館入館者数 9.2万人(H25年度)<目標7.5万人(H30年度)>
- ★山陰海岸学習館リニューアルオープン(H22)
- ★鳥取県民スポーツ・レクリエーション祭実施・1万人以上の県民が参加(H25年度)
- ★ガイナレ鳥取のJリーグ加盟(H22)





# V 支え合う

お互いを認め、  
尊重して、支え合う

第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会クライマックスイベント

## 1 一人ひとりの人権が尊重され、個性と能力が発揮できる社会、誰もが、心豊かに暮らせる男女共同参画社会

- 県民一人ひとりが人権の現状を知り、思いやりの心が育まれ、誰もがかけがえのない存在として尊重される共に生きる社会の実現を目指します。
- 人権相談窓口設置などによる相談・支援の充実などにより、誰もが自己実現できる社会を目指します。
- 男女共同参画を進めるための理解者やリーダーとなる者を増やすための普及啓発・人材育成を推進するとともに、多様な生き方を選べる社会を築くため、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を促進します。
- 企業や住民団体などにおける女性管理職・役員の登用を進めます。

## 2 人種・国籍・文化・言語の違いを認め合い、尊重する「多文化共生社会」

- 多くの外国人が本県を訪れ、滞在し、人種・国籍・文化の違いを認め合い、ともに暮らし、働き、交流するような社会の実現を目指します。
- 手話を必要とされるかたが社会参画できる環境を整備します。



ICT(テレビ電話)を活用した  
遠隔手話通訳サービス

## 3 高齢の方や、障がいのある方、社会的に支えを必要とされる方が地域・社会の中で「質の高い生活」を送る

- 社会参加活動など、高齢のかたの活躍の場を拡大します。全県的な介護予防の普及を促進します。
- 介護や医療が必要なときに、適切なサービスが受けられるよう、医療と福祉の連携を推進します。
- 地域における住民相互の支え合いの強化など、共に生きるまちづくりを推進します。
- 障がいのあるかたが地域で自立できるよう、グループホームの整備や、一般就労への移行支援など、住居・就労・日中活動を支援するとともに、地域との交流を推進します。
- 障がいのある子どもが自ら将来を選択・決定できる社会を目指します。
- DVの未然防止や被害者対策、加害者の再発防止など、民間支援団体などと協働・連携し、対策を推進します。
- 児童虐待の発生予防、早期発見・対応など総合支援体制の整備を推進します。
- ひとり親家庭の経済的自立の支援を推進します。
- 病気や失業などで生活に困窮している方をサポートします。
- 住民、ボランティア、行政などが連携し、「支え愛活動」を推進します。
- 障がいの特性や必要な配慮を理解する「あいサポート運動」の取組を進め、個性と人格を尊重し「共に生きる」地域社会を築く取組を進めます。



障がいのある方を  
サポートする方がつける  
「あいサポートバッジ」



地域住民の誰もが安心して集える  
「ふれあい共生ホーム」

## 4 「あんしん医療体制」構築と「健康づくり文化」の創造

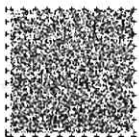
- 急性期から回復期、在宅医療に至るまで、適切な医療サービスが受けられる体制を構築します。
- 医師養成に向けた大学との連携や奨学金制度の充実などにより、地域で不足している医師や看護師を確保します。
- すべての世代が健康に関心を持ち、社会全体で「健康づくり文化」を創造します。
- 食を通して健やかに生きる力を育む「食育」を推進します。
- がん検診受診を拡大し早期発見・早期治療につなげるとともに、一定レベルの治療が受けられる体制を整備するなど、がん対策を進めます。



持続可能な医療提供体制を守るため、  
医師・看護師対策を進めます

これまでの  
主な成果

- ★ 支え愛制度の創設(H23.4)、あいサポーター登録者数207千人(H25年度までの累計)
- ★ 家庭教育推進協力企業の協定締結社数(H19年度末:126社→ H25年度末:570社)
- ★ 「鳥取県手話言語条例」の制定(H25.10)
- ★ 認知症サポーターの養成(H20:4,425人→ H25年度末:53,714人)
- ★ 福祉施設から一般就労への移行者数 97人(H25年度末)<目標62人(H30年度)>
- ★ 入所施設の入所者の地域生活への移行者数 341人(H25年度末)<目標513人(H20~30年度末累計)>
- ★ 就労継続支援事業所などにおける平均工賃月額の上昇(H18:10,983円→H25:17,090円)
- ★ 鳥取大学医学部附属病院救命救急センターの新築拡充(H22)、ドクターカーの配備(H25.5)
- ★ 兵庫県、京都府と連携したドクターヘリの運航開始(H22~)鳥根県ドクターヘリの県内運航開始(H25~)
- ★ 主要な公共施設を含む県内でのAEDの設置(H20:571箇所→ H26.9:1,021箇所)







世代を超えて仲良く折紙

# VI 育む 次代に向けて、躍動する「ひと」を育む

## 1 地域みんなで応援する「すこやか子育て」

- 育児休業を取得しやすい職場づくりやワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進、保育制度の充実、ファミリーサポートセンター・地域の子育て支援拠点の充実などにより、家庭・企業・地域で子育てを支える社会を目指します。
- 出会いの機会の創出や周産期医療体制の充実、育児支援のための家庭訪問の推進など、希望のこなう結婚・妊娠・出産ができる社会を目指します。
- 幼稚園教員・保育士の質・量の充実を進め、小学校就学前の保育・幼児教育を充実させます。
- 母親の不安感への対応など母子保健施策や小児医療の充実、多子世帯の保育料の軽減措置などを進め、経済的負担を軽減し、安心して子育てできる社会を目指します。



## 2 「人財・鳥取」の推進

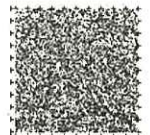
- 高等教育機関等が産業界等と連携して、グローバル化や社会の変化に対応でき、地域が求める優秀な「人財」(地域の宝である人材)を多数輩出したり、行政、地域への提案・協働を行うなど、地域や産業界とのつながりを強化します。
- 知事と教育委員会が互いに取り組みべきことを共有し、協力しながら学校教育を充実させます。
- 地域人材情報を集約した人材情報バンクや、学校と地域の間をつなぐ調整役の設置を進め、地域が学校を支援する仕組みを導入します。
- 児童生徒数の減少を踏まえ、学校運営の仕組みを見直しながら機能を強化し、地域の養成に応えられる教育機関を目指します。
- 「知」「徳」「体」のバランスの取れた教育を進め、子どもたちの学力の向上はもとよりスクールソーシャルワーカーなど専門人材の積極的活用や「いじめ・不登校対策センター」などの相談体制により次代を主体的に生きる力をつけ、それぞれの個性や能力を活かして、ふるさとに誇りを持ち地域社会に貢献できる人財の育成を目指します。教員の指導力・人間力を向上させるとともに、小・中・高の接続期におけるフォローアップ(手当)を強化して、確かな学力を身に付けた子どもの育成を図ります。
- 子どもたちが本県の歴史や文化など貴重な財産を大切に、「郷土とっとり」に誇りを感じる機運・意識を高めます。
- 子どもたちが英語と身近に触れ合うことで学ぶ意欲を高めます。
- 子どもたちが芸術・文化に触れ、感性を磨き、創造力、コミュニケーション力を高める機会を確保するとともに、様々な運動・スポーツにより運動習慣を定着させ、子どもの基礎体力の向上を図ります。
- 家庭、地域、企業、NPO、行政等が連携し、地域が一体となって家庭・地域の教育力を確立させるなど、「地域で子どもを教育する」意識の定着とその実践を目指します。
- 科学・ものづくりに触れる機会を増やし、青少年の理科・科学離れを食い止め、創造的で人間力を持った「人財」を育成します。
- 有害情報への適切な判断能力を身につけさせ、ペアレンタルコントロールの推進により有害情報の閲覧・視聴を防止し、青少年の健全育成を進めます。



土曜日等を活用した教育活動

これまでの主な成果

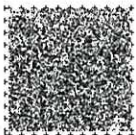
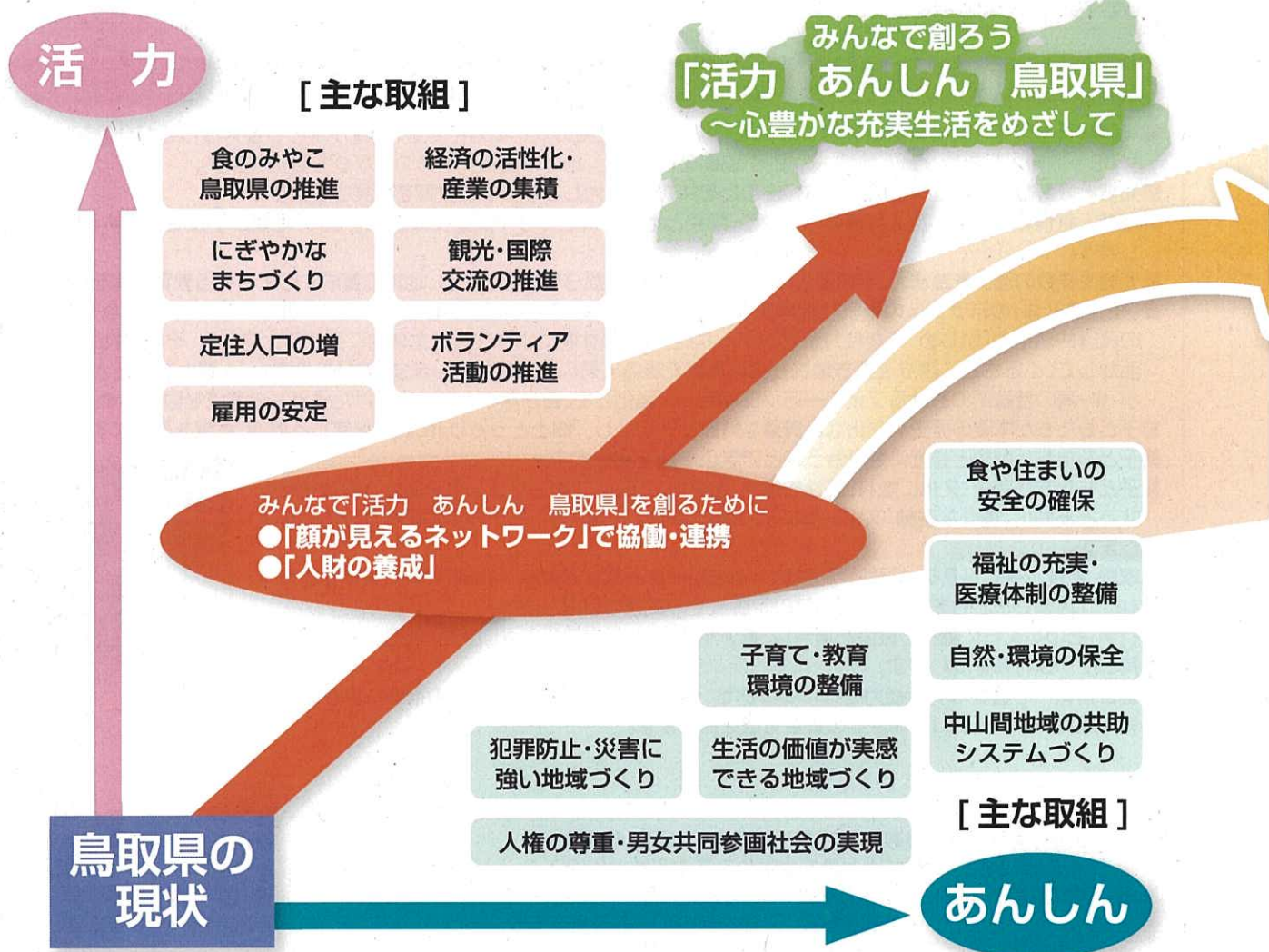
- ★ 放課後児童クラブ設置数 147箇所(H26.4)<目標134箇所>
- ★ 小児特別医療費の助成拡大対象を中学校卒業まで拡大(H23.4~)
- ★ 子育て応援パスポート登録世帯数 35,478(H20:11,195→H25:35,478)  
協賛店舗数 2,336(H20:986→H25:2,336)
- ★ 中山間地域における保育料の無償化モデル事業実施(H26~)
- ★ 知事と教育委員会とが連携協力する「教育振興協約」を締結(H24年度~)
- ★ 学校支援ボランティア事業実施状況 5,677人(H25) (H23制度創設)
- ★ 全国学力・学習状況調査(H25)において小・中学校の全ての教科で平均正答率が全国平均を上回った
- ★ 土曜日等を活用した教育活動の開始 10市町村(H26~)
- ★ 青少年健全育成条例の改定による保護者によるインターネット閲覧制限の努力義務化(H26.10)
- ★ 日本初の子ども中心のモノづくり実験工房ファブラボ(FabLab)ととりの開設(H26.5)



# みんなで創ろう 「活力」

「顔が見えるネットワーク」で協働・連携、「人財」<sup>じんざい</sup>の養成などにより、様々な分野でのこの「将来ビジョン」をおおむね10年後の鳥取県の目指すべき姿として県民の皆さんと

「活力」と「あんしん」とは相互に関連性を持ちながら、将来への展望を開き、鳥取県の「心豊かな充実生活」を高めていくものです。知恵と力を結集して様々な取組を進めていくことにより、地域経済、雇用を始めとした「活力」が高まり、併せて、生活・暮らしの「あんしん」も高まります。県民の力で「活力あんしん鳥取県」を創っていきます。



# あんしん 鳥取県

取組を進めることで、「活力」にあふれ、「あんしん」して暮らせる鳥取県を目指します。  
共有し、ともに鳥取県の発展を目指します。

## 「顔が見えるネットワーク」で 協働・連携

県民一人ひとり、NPO、住民団体、地域活動を行う方・団体、企業等のそれぞれの主体が、地域づくりを始めとする様々な活動に「主体的に取り組む意思・スキル(技能)・ビジョン(展望)を持ち、お互いの戦略や情報を共有化し、お互いが顔が見える関係」、即ち「顔が見えるネットワーク」をつくり、協働・連携して取り組むことにより、総体として大きな成果をあげることを目指します。

## じんざい 「人財<sup>(※)</sup>」の養成

※地域の宝である人材

県内で様々な活動を進めていくためには、「人財」が知恵と力を発揮して活発に活動することが求められます。そのためにも「人財」の育成・確保が大切です。

新たな地域づくり・ネットワークづくりを展開し、その中で地域を支える「人財」を養成するほか、地域全体で応援する子育て、家庭・地域全体で考え、支える教育等の取組などにより、豊かな自然といった本県の特長を活かした多様でたくましい「人財」の育成に取り組めます。



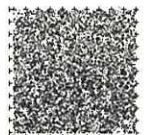
## 鳥取力創造運動について

これからの時代、本県にとって、人口が少なくコンパクトであるがゆえにコミュニケーションやネットワーク形成が容易、ボランティア活動に住民関わった割合が全国で上位であるなど、本県ならではの特性を活かすことが重要です。

鳥取力創造運動は、県民がそれぞれの立場で強みを活かし、互いに協働・連携し知恵と力を結集すること、また、こうした取組が、住民主体で、或いは住民・NPO・団体・企業・行政等が連携して県内各地で活発に行われ、鳥取県全体で地域の底力を発揮し、魅力的な地域づくりを県民運動として進める活動です。



鳥取力創造運動ホームページ  
<http://tottoriryoku.pref.tottori.jp/>



# 鳥取県はどこに活路を見出すか

## ～ポテンシャルを活かして

鳥取県の持続可能な発展のため、鳥取県が持つ潜在的な力を活かした取組・方向性に活路を見出し、大きく踏み出します。

### 北東アジアへの窓口

鳥取県は、経済成長著しい北東アジアに近いという特性があります。

環日本海を始めとする「大交流新時代」へ踏み出し、本県が人・物の西日本における、北東アジア地域への窓口となることを目指します。



### 近畿圏域とつながる

今後の高速道路の整備などにより、近畿圏域との時間距離はさらに短縮します。

中国地方の一員であることに加え、グレーター近畿(\*)の一員として地域間連携を進め、販路拡大、情報発信強化など打って出る取組を推進します。

※京阪神を中核とした広域的経済圏域

### 住民主体の地域づくり

鳥取県は、コンパクトなまとまりがあり、ネットワーク形成が容易です。また、ボランティア活動に住民が関わった割合(\*)が全国で上位であるなど、住民が主体となって、地域づくりなどを進めていく素地があります。

住民主体の「新たな地域づくり・ネットワークづくり」を行政が推進し、新たな協働活動や担い手の増加を目指します。

また、個々の地域活動がつながり合って、より大きな効果を生み出す地域づくりを展開します。

※平成23年社会生活基本調査(総務省)より



「鳥取県の将来ビジョン」の全文については、県のホームページに掲載しています。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/vision/>

「鳥取県の将来ビジョン」についてのお問い合わせ先

鳥取県未来づくり推進局企画課

TEL: 0857-26-7650

FAX: 0857-26-8111

電子メール mirai-kikaku@pref.tottori.jp

### 「価値実感生活」の実現

鳥取県は、豊かな自然・環境、食、文化など大都市圏にはない、さまざまな優位性を持っています。

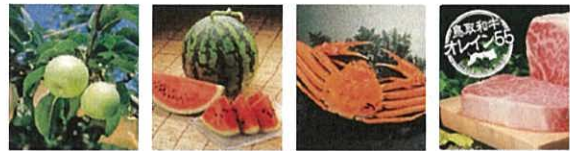
このような地域の「良いところ」「誇りを持てるところ」を再認識し、地域において自分の存在や役割に手応え・充実感が感じられる「価値実感生活」を実現します。



### 食のみやこ鳥取県

県内には素晴らしい農林水産物や加工品などが数多くあります。

素材が良く、安全・安心で、美味しい食の魅力を健康、安全、観光と連動させ、「食のみやこ鳥取県」を鳥取県の一つの「文化」として定着させます。



### 新しい産業の創出

県内には多彩な産業が立地し、さらに氷温技術や乾燥地の研究など、特色のある技術開発や調査研究も行われています。

これらを活かし、県内製造業などの高付加価値化や新規立地を推進します。また、各産業が連携し、地域の資源や技術を組み合わせることで新しい産業を創出します。

### 共生し支え合う都市地域と中山間地域

鳥取県は、都市地域と中山間地域が比較的近接している県土構造です。

都市地域と中山間地域がそれぞれの特徴を活かし、補完し支え合う共生の関係を構築し、中山間地域での生活が持続できる仕組み作りを推進します。

